

手をたずさえて

“小原田PRIDE”～自信と誇り

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和3年6月18日(金)発行
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

厳しさの中で得たものを自分や自分達のこれからに生かす

今回も勝負の厳しさを思い知らされた大会となりました。上位大会に進めば進むほど、その厳しさは増してきます。そんな中でも、ソフトテニス部が男女揃って県大会への出場権を獲得したことは特筆すべきことです。男女ともに粘り強いプレーが随所に見られました。また全員で戦うという姿勢も強く感じられました。新人大会に続いて県大会出場を目指した野球部は、その目標を達成することができませんでした。しかし、春の選手権大会優勝校として県中白球会選手権大会(19日)でGIANTS杯出場を賭けた戦いに挑みます。その初戦の相手が今回負けた三春中となります。卓球部女子も団体・個人戦でともに1回戦を突破することができました。団体戦はまさに“全員卓球”で勝ち取った大きな1勝でした。男子個人ダブルスも強敵相手でしたが、大きな舞台でプレーできたことを誇りに思ってください。特設水泳、特設テニスの生徒達の活躍も光りました。県大会や別の大会に出場する部の生徒達は今回の戦いを振り返り、再度課題の修正に努めてください。また、今大会で部活動を引退する3年生にはお疲れ様でしたと労いの言葉をおくります。

激戦の足跡

【野 球】

日野遥介、泉 湧貴、鈴木日向、佐々木悠人、宗像颯翔、遠藤大空、近内快成、今泉僚太、佐賀春空
伊藤吉太郎、菅野 優、蓮田翔空、石川琉也、沼田拓実、石森友悟、草野仁志、中野 蓮、伊野真司

1回戦 VS 三春 0-7 敗退

【ソフトテニス男子】第3位 県大会出場

浦山夏樹、木原碧仁、鈴木伶央、北條雄琉
木幡叶夢、宗像一樹、阿部蒼太、善方瑠沙

《団体》1回戦 VS 須賀川二 3-0 勝利

2回戦 VS 船引南 2-1 勝利

準決勝 VS 高瀬 0-3 敗退

《個人》鈴木伶央・北條雄琉 2回戦敗退

【ソフトテニス女子】第3位 県大会出場

伊野裕美、岡島 凜、松坂梨瑚、石田紗希
遠藤美月、関根美祐、伊藤 舞、遠藤佑菜
近藤 凪、田中里奈、錦 爽加

《団体》2回戦 VS 常葉 3-0 勝利

準決勝 VS 逢瀬 1-2 惜敗

《個人》伊野裕美・近藤 凪 2回戦惜敗

松坂梨瑚・錦 爽加 1回戦惜敗

【卓球男子】《個人ダブルス》吉田大河・本田圭吾 1回戦(船引)敗退

【卓球女子】

宗像希未、伊藤由衣、橋本若奈、宇恵野真奈美、凌りくな、高橋穂乃佳
佐藤愛華、横田花穂

《団体》1回戦 VS 須賀川二 3-2 勝利、2回戦 VS 富田 0-3 敗退

《個人シングルス》伊藤由衣 2回戦敗退

《個人ダブルス》宗像希未・橋本若奈 2回戦惜敗

【水 泳】草野幹棕 100m自由形 第5位 1:05.03

200m自由形 第3位 県大会出場 2:21.98

【硬式テニス】《個人シングルス》

三瓶涼賢 優勝 (奨励種目のため、県大会は実施しない。)、平山 慶 2回戦敗退



浅田真央が教えてくれた、“負けた自分”との向き合い方 ～中体連県中地区大会を終えて～

みんなは、フィギュア・スケート選手として一世を風靡した浅田真央さんを知っていますか？

2017年4月に現役を引退した浅田真央さんが、2018年5月に自らプロデュースして立ち上げた『浅田真央サックスツアー』が、今年の4月27日の公演でラストを迎えました。「生で真央ちゃんの滑りを見たことがない」という多くのファンのために立ち上げたアイスショーでした。各地にいるファンに安いチケット料金で楽しんでもらおうと、主に常設スケートリンクを利用して、3年間をかけて全国32都道府県、のべ50会場で202回の公演を行ってきました。この浅田真央さんが4年前引退した時のNifty Newsにこんな記事が掲載されていました。

フィギュアスケーターの浅田真央が引退を発表しました。ピョンチャン五輪への出場を目指すと言われていた中での決断には驚かされました。「まだできるのに」と惜しむ声もあがり、改めて影響力の大きさがうかがえるニュースでした。彼女ほど多くの人々に愛されているスケーターも珍しいと思います。

10代前半から現在に至るまで成長を見てきて、強い思い入れがあるという人も多いでしょう。だけど、特に熱心なファンでなくても、浅田真央を見ると特別な感情がわいてくる。ただ“スケートが上手で天真爛漫な女の子”では片づけられない。彼女にはある種の偉大さがあったのです。しかも、それが勝利や成功ではなく、むしろ失敗や挫折を味わうたびに発揮されていたのが興味深い。

やはりその中でも次の2つは外せないでしょう。1試合で3回のトリプルアクセルを成功させながら銀メダルに終わったバンクーバー五輪。全身で涙をこらえようとしていた演技後のインタビュー。途中で切り上げて誰も文句を言わなかった状況で、最後まで質問に答え続けました。そしてもうひとつはソチ五輪。ショートプログラムでの大失敗を乗り越えて、圧巻の演技を披露したフリープログラムは、いずれもスポーツの枠を超えて真に迫る光景でした。もちろん、良い成績を残すことはアスリートにとって大切です。それが第一に評価を受け、称賛されるべきことからは間違いありません。しかし、同時にアスリートが現役として最前線で活躍できる期間は限られています。競技を終えてからの人生の方が長いわけです。

だとすれば、スポーツには輝かしい戦績を残す以上に大切なことがあるのではないだろうか？

それがバンクーバーやソチで浅田真央が教えてくれたことだったように思うのです。

物事が自分の思い通りにならなかったときにどう振る舞い、そして、そこからいかにして這い上がるか。

浅田真央が立派なのは、16歳にしてグランプリファイナルを制したからではなく、その後の不本意な敗北や挫折を受け止め続けたからなのです。



「学校だより No.6」でも紹介した二つの言葉です。まずは、プロ野球の野村克也氏の言葉です。

「勝ちに不思議な勝ちあり、負けに不思議な負けなし」

たまたま勝つことはあっても、たまたま負けることはまずない。負けるには負けるだけの理由が必ずあるということ、負けたときはその理由をよく考えれば、そこから学べることも多い、という意味です。

そして、オリンピック水泳の金メダリストの北島康介氏の言葉です。

「負けを知ったとき、初めて勝つことができる」

もちろん、努力して結果が出ると、自信になります。努力せず結果が出ると、傲(おご)りになったり、努力せず結果も出ないと、後悔が残ったりします。でも努力して結果が出ないとしても、勝負に負けたとしても「経験」が残ります。上記の浅田真央さんのように、自分の失敗や挫折に正面から向き合い、それらを受け止めていくその経験こそ、勝利からは学べないとても貴重な学びにつながっていくものと考えます。

中体連県中地区大会を終えたこの節目に、みんなも考えてみてください。

保護者の皆様へ

県中大会出場運動部の保護者の皆様には、今回も会場での応援は叶いませんでしたが、温かい心の応援や常日頃からの物心両面にわたるご支援をいただきまして、本当にありがとうございました。今年度の中体連県大会は、オリンピック・パラリンピック開催の関係で、例年に比べ早い時期での開催となります。期日、会場は次の通りです。

【陸上競技】7月5日(月)～7日(水) 郡山ヒロセ開成山陸上競技場

【総合競技】7月15日(木)～17日(土)

水泳：会津水泳場(会津若松市)、ソフトテニス：しらさかの森スポーツ公園(白河市)

※なお、県大会も無観客での開催となります。

